

# W-779 取扱説明書

W779-z-2111

お買い上げありがとうございます。  
ご使用前に本取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱い  
下さいませようお願い申し上げます。  
本取扱説明書はお手元に保管して下さい。

- 印刷による制限のため本取扱説明書中の図が実際の表示と異なる場合があります。
- 本製品によって生じたいかなる支出・損益・その他の損失に対して何ら責任を負いません。
- 本取扱説明書を製造者の許可なく変更・複製することを禁じます。

## 製品仕様 (改良のため予告なく変更する場合があります。)

- 時間精度: 平均月差 ±30 秒以内 (気温 25℃で使用した場合)  
※電波時計による時刻修正を行わない場合  
※指針 (針の位置) 誤差  
アナログ時計の特性上、指針誤差が生じる場合がありますが、故障ではありませんのでそのままお使い下さい。  
秒針: ±1 秒以内、時・分針: ±3 度以内
- 使用温度範囲: 0 ~ +40℃ ※結露なきこと  
(外觀 / 機能に支障無く、連続使用可能な温度範囲)
- 使用推奨電池: 時計用: 単3形アルカリ乾電池 (LR6 1.5V) 1個  
: ライト / 温度湿度計表示用: 単2形アルカリ乾電池 (LR14 1.5V) 4個
- 電池寿命: 時計用: 約 12 ヶ月 (単3形アルカリ乾電池 1個使用の場合)  
: ライト / 温度湿度計表示用: 約 10 ヶ月 (単2形アルカリ乾電池を4個使用し、1日に8時間ライトを使用した場合)
- 電波受信: 40kHz/60kHzのどちらか受信しやすい電波を受信し、現在時刻に合わせる  
●自動受信 (最多 6 回 / 1 日) ●手動受信
- 夜間秒針停止機能: 午後 10 時 0 分 ~ 午前 6 時 0 分の間、秒針のみ 12 時位置で停止
- 温度表示範囲: -19.9 ~ +50℃  
※ -19.9℃より低いと [Lo]、+50℃より高いと [Hi] を表示
- 温度精度: ±1℃ (+10 ~ +35℃の間)  
±2℃ (上記以外)
- 湿度表示範囲: 10 ~ 95%RH  
※ 10%より低いと [Lo]、95%より高いと [Hi] を表示
- 湿度精度: ±5% (温度 25℃で、30 ~ 80%RHの間)  
±10% (上記以外)
- 自動点灯機能: 光センサーにより周囲が暗くなると自動的にライトが点灯
- 置掛向用: スタンド付属
- 本体重量: 1200g (電池未挿入)

## 電波時計について

電波時計とは  
標準電波を受信して自動で時刻を修正する機能を持つ時計です。  
※電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。

標準電波とは  
情報通信研究機構 (NICT) が運用している時刻情報をのせた電波です。標準電波送信所は、福島県の「福島局: おおたかどや山標準電波送信所」と、佐賀県と福岡県の県境にある「九州局: はがね山標準電波送信所」の国内2か所にあります。  
※標準電波の時刻情報は、およそ 10 万年に 1 秒の誤差という精度の「セシウム原子時計」によるものです。

標準電波の送信停止について  
標準電波は毎時 15 分と 45 分から各 1 分間は一部の時刻情報の送信が中断されます。また、送信所の定期点検や落雷などの影響により停波 (送信停止) することがあります。標準電波の送信状態については「情報通信研究機構」のホームページをご覧ください。

日本国外でのご使用について  
本製品は、日本の標準電波以外は受信できません。海外で使用した場合、ご使用になる場所の条件により日本の標準電波を受信したり、ノイズにより誤った日時を表示する場合があります。あらかじめご了承下さい。

電波の受信範囲について  
送信所からおおむね半径 1000km とされています。  
※電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。



### 電波を受信しにくい環境

次のような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。

- 工事現場、空港の近く、交通量の多い場所など電波障害の起きやすいところ
  - ビルの中、ビルの谷間、山など電波を遮るものの近く
  - 鉄筋、鉄骨の建物の中や地下
  - 金属製の雨戸やブラインドの近く
  - 高圧送電線、ラジオやテレビの送信所の近く
  - 自動車、電車、飛行機などの中
  - 家電製品やOA機器、蛍光灯などの照明器具の近く
  - スチール机などの金属製家具の上や近く
  - 朝・夕の時間帯や雨天のとき
- ※電波障害などにより誤った電波を受信し、時刻を誤表示する場合は、リセット操作を行い使用する場所を変更してご使用下さい。

標準電波についての詳しい情報は「情報通信研究機構」のホームページ内の「日本標準時グループ」を参照して下さい。

情報通信研究機構 ホームページアドレス <https://jjy.nict.go.jp>

## 温度湿度表示機能について

- 本製品は工業用 (業務用) 計測機器として使用する目的で製造されたものではありません。温度湿度表示機能は、センサーが本体内部に設置されているため、表示が安定するまでに時間がかかる場合があります。
- 他の製品、温度計・湿度計との誤差が発生する場合があります。
- 使用温度範囲を超えた場合、故障の原因となりますので、注意して下さい。

## 電池の交換について

- 時計用電池容量が少なくなると、秒針の進みが目に見えて遅くなります。自動電波受信のときは針がぐるぐる回ります。このような場合は、速やかに新しい電池に交換して下さい。
- ライト / 温度湿度計表示用電池容量が少なくなると液晶表示が薄くなったり見えにくくなることがあります。また、ライトの光量が少なくなったり、チラついたりします。このような場合は、速やかに新しい電池に交換して下さい。※買い置き電池を使用した場合、乾電池に示されている「使用推奨期限」や保管状態により、電池寿命が短くなることがあります。※時計が動いていても、製品仕様欄に記載の電池寿命を目安に、定期的に電池を交換して下さい。

## 故障かな?と思ったときには...

※製品が正常に作動していないときは修理を依頼する前に下記を参考に確かめて下さい。

### 針がぐるぐる回る

考えられる原因	処置
電池容量が少ない	時計用電池を、新しい電池に交換して下さい。
電池を入れた直後の電波の受信の準備中	そのままお待ち下さい。 早回りにしている針は正午 (12 時位置) で一旦停止します。 電波を受信すると、自動的に針を現在時刻に合わせます。 ※その間ボタン操作はしないで下さい。
時刻修正中	電波受信に成功した場合、自動的に針を現在時刻に合わせます。 電波受信に失敗した場合、通常の運針を始めますが、現在時刻ではありません。 本書 <b>電波受信ができなかった場合は</b> を参照して下さい。

### 秒針が止まって動かない

考えられる原因	処置
夜間秒針停止中	そのままお待ち下さい。 ※内蔵プログラムにより、午後 10 時 0 分から午前 6 時 0 分までの間、秒針が 12 時位置で停止します。 ※午前 / 午後を間違えて設定すると、日中に夜間秒針停止機能が作動してしまいます。 ※本製品は、秒針位置の誤差を自動で修正します。
午前 / 午後を間違えて設定している (手動設定時)	
針がぐるぐる回った直後の電波受信	
秒針位置の自動補正中	

### 時計が動かない

考えられる原因	処置
電池容量が無い 電池が入っていない 電池が正しい向きで入っていない	時計用電池を、電池の ⊕ ⊖ の向きを確かめて、新しい電池に交換して下さい。
電池端子の接触不良	端子の表面をふいて電池を入れ直して下さい。

### 時計が止まる、または遅れる

考えられる原因	処置
電池容量が少ない	時計用電池を、新しい電池に交換して下さい。
電波障害	リセット操作をして下さい。 (本書 <b>リセット操作について</b> 参照)

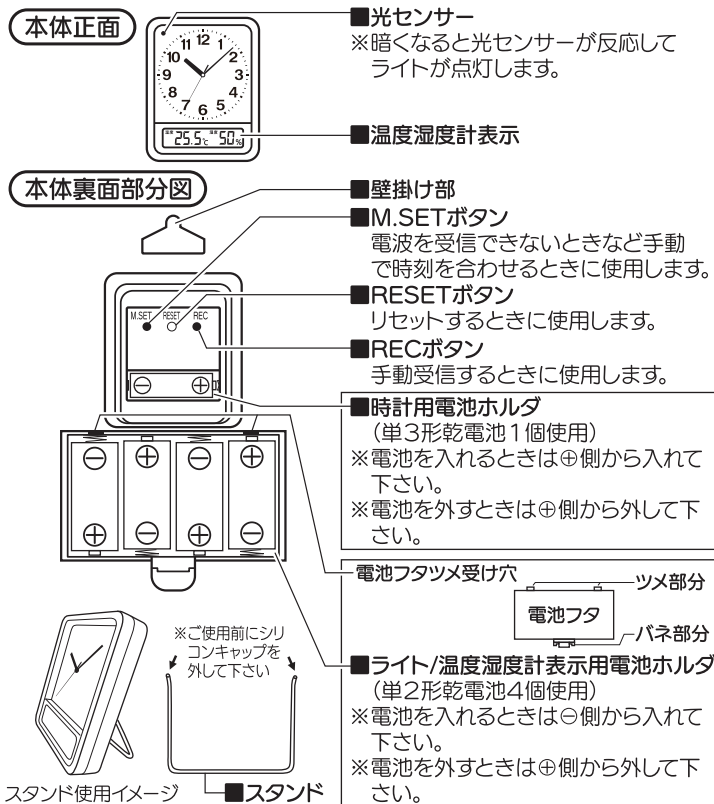
### 時分針が早回りにした後、動かない

考えられる原因	処置
電波の受信	そのまま 12 分程お待ち下さい。その間ボタン操作はしないで下さい。
電池容量が無い 電池容量が少ない	時計用電池を、新しい電池に交換して下さい。

### 液晶表示が点かない / ライトが点かない / ライトが暗い

考えられる原因	処置
電池容量が少ない 電池が正しい向きで入っていない 電池容量が無い	ライト / 温度湿度計表示用電池を、⊕ ⊖ の向きを確かめて、同じ種類の新しい電池に 4 個同時に交換して下さい。
光センサーが反応していない (ライトが点かない) の原因に該当)	周囲の明るさを確認して下さい。

## 各部の名称



## ご使用方法


### 時計の使い方

- ①電池を入れる  
単3形乾電池1個を、時計用電池ホルダの⊕の表示に合わせて入れる。
- ②初期電波受信を開始  
電池を入れると電波受信状態となり、針が早回りをして、正午(12時位置)で一旦停止します。

**注意** 電波受信中(4~12分間)は針が停止したままになりますが、故障ではありません。電波受信の結果がわかるまで、そのままお待ち下さい。

- 電波受信に成功した場合、自動的に針を現在時刻に合わせます。
- 電波受信に失敗した場合、時刻を修正しないで、針は正午(12時位置)より通常の運針を始めます。  
→ 電波受信ができなかった場合は… を参照。
- ③時計を掛ける  
本書「時計の掛け方について」と「電波時計について」を参照。

### 温度湿度計の使い方

- ①2枚の表示ラベルを剥がす。  

- ②ライト/温度湿度計表示用電池ホルダの電池フタを開けて、単2形乾電池4個を⊖の表示に合わせて入れる。温度湿度計表示が点灯します。ツメ部分を電池フタツメ受け穴に差し込み電池フタを閉じる。

### 電波受信ができなかった場合は…

- ①朝までそのまましておく  
一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、一晩そのままにしておくと、受信できる可能性が高くなります。
- ②設置場所を変える/受信をやり直す  
本書「電波時計について」の「電波を受信しにくい環境」と「手動受信について」を参考に、設置場所を変えて、再度、受信をさせる。
- ③手動で時刻を設定する  
電波を受信できない場合は、内蔵フォーツの精度で計時します。  
本書「手動で時刻を設定する」を参照。

### 手動受信について

- ①通常運針時(電波受信以外)に、RECボタンを秒針が早回りを始めるまで押し続ける。
- ②電波受信状態となり、針が早回りをし、正午(12時位置)で一旦停止します。

**注意** 電波受信中(4~12分間)は針が停止したままになりますが、故障ではありません。電波受信の結果がわかるまで、そのままお待ち下さい。

## 手動で時刻を設定する

W779-z-2111

**注意** 電波受信中は、手動による時刻設定はできません。  
※電波受信中は、受信のための時分秒針の運針中または停止中のことです。

- ①通常運針時(電波受信以外)に、M.SETボタンを秒針が早回りを始めるまで押し続ける。  
※針が12時位置で停止し、手動で時刻が設定できる状態になります。
- ②(秒針が停止中)にM.SETボタンを押す。  
※30秒以上何も操作をしないと通常運針を始めます。  
※1回押すごとに分針が1分ずつ進みます。ボタンを押し続けると早回りをし、放すと停止します。  
※お使い始めの電波受信中の針は、正午(12時位置)で停止します。合わせたい時刻が午前の場合は12時間以上移動させて現在時刻に合わせて下さい。
- ③手動設定が終了したら、RECボタンを押す。  
※手動で時刻を設定した場合、自動受信時間になると、電波を受信する状態になります。電波受信に成功した場合、自動的に針を現在時刻に合わせます。

### 自動電波受信機能について

本製品は、時刻を修正するために、毎日、内蔵プログラムにより自動電波受信を行います。電波を受信できない場合、内蔵フォーツの精度で計時し、次の自動受信時間に再び電波受信を行います。

### 夜間秒針停止機能について

本製品は内蔵プログラムにより、午後10時0分から午前6時0分までの間は、秒針のみ12時位置で停止します。  
※夜間秒針停止中であっても自動受信のときは、秒針が動くことがあります。また時・分針も通常運針以外の動きをすることがありますが故障ではありません。  
※夜間秒針停止機能の解除、時刻設定はできません。

### ライト自動点灯機能について

本製品は文字板面に組み込まれた明るさを感じ取る光センサーによって、周囲が暗くなると文字板面と液晶表示部分に自動的にライトが点灯します。※日中や夜間の照明時などでも、周囲の明るさが不足しているとライトが点灯する場合があります。

### リセット操作について

操作中に不明な点が出てきた場合、RESETボタンを押して下さい。設定されている内容がお使い始めの状態に戻ります。針が早回りして12時位置で停止し、再度4~12分間電波受信状態となります。  
※RESETボタンは、先の細い尖っていない棒などで押して下さい。針などの鋭利なものを使用するとボタンが破損しますのでご注意ください。

### 静電気の影響

静電気の影響により、正常に動かなくなることがあります。このような場合、リセット操作をして下さい。

### 液晶表示について

- 液晶表示は角度により見えにくくなります。
- 温度が低くなると液晶表示の反応が遅くなることがあります。
- 液晶表示板は5年を過ぎるとコントラストが低下して、表示が見えにくくなる場合があります。
- 0~+40℃の温度範囲を超えると、液晶表示が見えにくくなる場合があります。

### 時計の掛け方について

**注意** 掛け方が不適切な場合、落下する危険があります。

- 掛け具に時計を掛けた際に、時計本体を上下・左右・前後に軽く動かして、確実に掛かっていることを確認して下さい。
- 時計は垂直・水平に掛けて下さい。時計に傾きがあると時計の精度や機能が正常に働きません。
- ドアを開閉するときの振動が伝わらない所に掛けて下さい。
- 落下の原因になりますので、壁掛け部以外には掛けしないで下さい。
- 壁の裏側に電気配線等がある場所に取り付けると掛け具で電気配線等を傷つけ、火災・感電につながる恐れがあります。事前に電気配線等の位置を確認し、取り付けて下さい。
- 壁の材質・構造を確認の上、この時計の重さに充分耐えられる掛け具を選んで下さい。
- ※材質・構造がご不明の場合は、建築メーカー等へ相談して下さい。



### スタンドについて

置いて使用する際は、シリコンキャップを外し、スタンドを時計裏面のスタンド差込口に奥まで差し込んで下さい。

- 時計を移動の際は、時計本体とスタンドを一緒にお持ち下さい。時計本体だけを持ち上げると、スタンドが本体から外れ落下する恐れがあります。また引きずったりすると、スタンドで家具等に傷をつけてしまう恐れがあります。取り扱いにご注意下さい。
- 転倒や落下を防ぐために水平で振動の少ない安定した場所に置いて下さい。
- スタンドの先端でケガをしないようにご注意ください。

